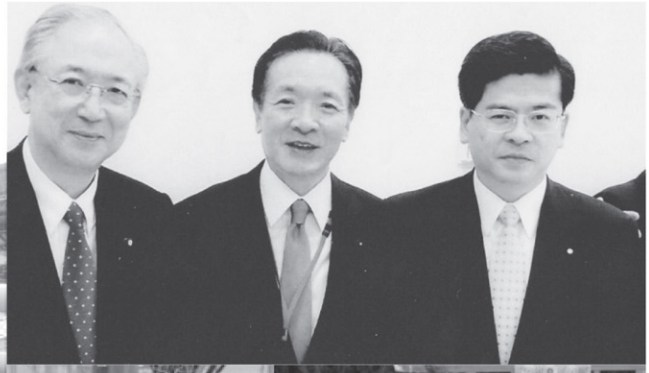


こどもたちは　元気にそだってほしい
未来は　きみのものだから
年老いたあなたは　報われる日であってほしい
豊かな今は　あなたのおかげなのだから
大変な時代だけど　一緒にあるこう
僕は
がんばるあなたを　応援する

小林かつとし通信 vol.2(実績集)

中小企業経営緊急安定化資金の創設と制度拡大！

驚い信頼と決断力

基金総額396億8000万円3806社を救済4万人の雇用をまもる！

世界的な金融恐慌の勃発！

金融機関の貸し渋りや貸し剥がしによる企業倒産、失業、社会不安から、市民県民の生活を守るために、国の政策を待つことなく、全国でも例のない、県単独による中小企業経営緊急安定化資金の創設を提案しました。

未曾有の危機のとき、県知事を励まし、同僚議員を説得し、実現したのです。

民間企業の資金繰りは待ったなしの状態でした。金曜日の夕方には準備した基金が枯渇しました。

小林かつとし県議は、基金の枯渇が、金融機関の貸し剥がしを誘発すると判断しました。

躊躇する、県知事以下、県幹部職員を励まし、知事専決処分による基金の積み増しと、緊急の記者会見を進言しました。

緊急の記者会見は、金融機関の動揺を防ぐために必要であり、そのとおりに実行されました。

他県において、大規模な企業倒産（九州7県で3500社）と失業が吹き荒れ、混乱するなかで、長崎県はわずか、10社。

経済調査機関商工リサーチでも驚きの成果を上げ、県民市民の生活を失業と混乱から守ったのです。

大村上駅通地区再開発事業の推進

一九九四年に始まった再開発事業ですが、大村市の財政難のために全く頓挫、断念せざるを得ない事態となっていました。

小林かつとし県議は地元商店街の皆さんと一緒に粘り強く大村市、県当局と交渉し、計画実現へ向けて大きく前進させました。

さらに中核企業が、金融恐慌で倒産・撤退藤井副知事と連携し、『不況対策補助金』として、国から新たな予算獲得を実現し、着工実現を確かなものとしました。

総事業費
45億
3千万円
国・県・市からの補助金
19億
5千万円
販売分
25億
8千万円

地元商店街の負担金はありません

プレミア商品券発行事業の事業経費半額を県費支援決定

国の景気回復事業のひとつ、定額給費金事業の実施において、地元商店街は『まず地元で商品を買って貰いたい』という気持ちで、割り増しを付けたプレミアム商品券を発行することを計画しました。

地元に景気回復をという願いで始まった発行事業も、事務経費等、大変な費用がかかります。

小林かつとし県議は、地元商工会から陳情を受け、早速県議会において、『地域で頑張ろうとする事業者を支援』するように提案し、同僚議員、県当局を説得しました。

事業経費の半額を、県が支援することを決定しました。

渡邊　忠俊理事長

経済活性化と活力ある街づくり

入札制度の改革 最低制限価格の改定実現

90%
85%

仕事がない、そのために入札では無理をして安い価格で落札する。

仕方がないので働く人たちの給料を安くする、社会保障費を削る。

市民生活はデフレスパイラルのように、確実に悪くなっていました。

小林かつとし県議はそういう厳しい実態に目を向け、最低制限価格の改定（85%を90%）し、歯止めをかけました。

公共工事による財政出動と地元優先発注主義の決定

ものを買うお金がない、ものが売れない、仕事がない。ないないづくしを打開すること。

それが、公共工事による財政出動です。

小出しの政策ではなく、またのんびりと国の政策を待つのではなく、積極果敢に、県独自の施策・対策を実行する。

小林かつとし県議は、県議会において公共工事の前倒し発注と、地元優先発注主義を提案、決定しました。

これが、小林かつとしの真髄です。

市民の声を聴き、すぐ行動！すぐ結果！

大村駅をバリアフリー化する・・弱者に優しい街造り・・

大村駅は歴史的建造物です。

そのため、バリアフリー化にほど遠い施設です。

小林かつとし県議は、国、県当局、ＪＲ機構と交渉し、バリアフリー化のための予算化を実現しました。

特に本年は大村にとっても特別、アジア各国から、全国から多くのお客様が訪れる年です。

平成23年度2月議会（3月8日）

【小林県議】

・・全国から多数のお客様を迎える大村駅が、傷害を持つ方々やご高齢者等、バリアフリー化されることは喜ばしい。

今回の事業実施主体はどこか、負担割合は？

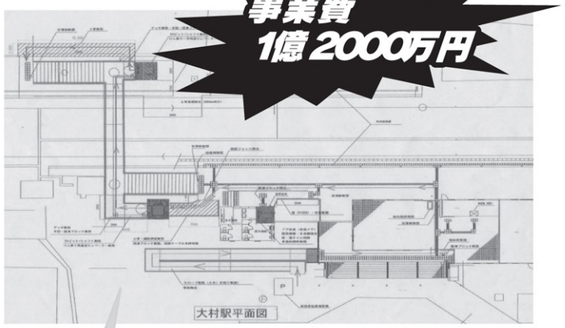
《地域振興部長》

ＪＲ九州が主体。国の補助金（地域公共交通確保維持改善事業）を受け、総額1億2千万円、国、ＪＲ九州、県と市でそれぞれ三分の1の負担です。

【小林県議】

地元の皆さんは大いに喜んでいるところです。今回の大村駅のように、国の基準に基づき、またたとえ補助の対象にならないような小さな駅でも、バリアフリー化することは必要、ハンディを持つ方々がより一層利用しやすくなる、・・・（以下略）

事業費1億2000万円



段差解消スロープ
エレベータ設置2基
障害者対応トイレ設置

FIBA アジア 女子バスケットボール選手権
長崎／大村大会へ県支援（2,500万円）決定

ロンドンオリンピック予選

大村で世界大会（アジア選手権）が開催されます。この大会は、百万都市クラスで開催されることが普通。

大村市のような地方中小都市での開催実現はなかなかできないことです。しかも高額な地元負担金を大村市単独で負担することは不可能です。

小林かつとし県議は、大村市長、川添市議、バスケットボール協会陳情を受け、早速、知事、副知事、県幹部と交渉、補助金を獲得大村大会開催に大きな貢献をしました。

《平成23年2月議会》
3月8日
【小林県議】
今年8月21日から28日迄の8日間大村市において、アジアバスケットボール選手権大会が開催されます。この大会は、知事が進めんとする、アジア・国際戦略をアピールする絶好の機会である。これは、考え方としてひとりバスケットボール関係者のみが頑張るのではなく、開催地の大村市をはじめとして、県民総ぐるみ、一体となって盛りあげていかねばならない。そのなかで、県は千二百万円の予算を計上しているが、根拠はなにか。

《スポーツ振興部長》
予算巣額二億五千万円、平成19年の徳島大会を参考に全体事業費の1割の半分を負担、千二百万円を負担します。

【小林県議】
試合会場シーハット大村の改修が必要で、追加費用二千万円が必要である。主催者である県バスケットボール協会の皆さんは大変苦慮されている。更なる支援はできないか。

《スポーツ振興部長》
関係者の皆様がボランティアでされていることは承知している。どのような支援策があるか協議した。事務局体制の強化を図るという名目で、『緊急雇用創出事業臨時特例基金』を活用し、千三百万円の支援をおこなう。

頑張る人、事業に県支援を実現する！

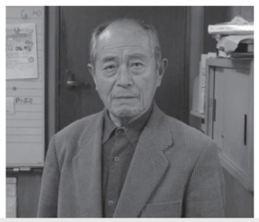
ものづくりフェスタ県財政支援決定

技能士の技術交流と向上のために、長崎市でのみおこなったもの。大村でも活性化のために、アーケードで実施したが、予算が無く困っていた。

小林県議に陳情したところ、即日、県からの支援が実現。

県立高校二校も参加した『ものづくりフェスタ』が成功裡に終わりました。

編物教室 児玉ヤツ様
ものづくりフェスタ会場


大村技能士会長 生野信義様

新農機具開発に成功した企業へ県助成金交付

大村発、日本全国で通用する、新しい機器の制作・製造・販売に取り組んでいる、大村を元気にする企業がここにあります。

しかし、地方の小さな資本ではせっかくの技術力を生かし、全国に展開する企業に成長できません。独自の力を発揮する、こういう企業の育成は県勢、市勢伸張のために大切です。

小林かつとし県議は、長崎・大村の活性化のために、こういう頑張る企業が大切と考えています。

田中工機社長、田中 博様、と

子供たちを守る、文化・教育・福祉で全力を尽くす・それが小林かつとしです

私立高校授業料免除制度実現

大不況は、私立学校に学ぶ子供たちの家庭も直撃。

公立学校に通学する生徒以上にその負担は大きいのです。

小林かつとし県議は、子供たちの学習権の保障のために私立学校で学ぶ子供たちの保護者負担軽減措置を実現しました。

その結果、私立高校の授業料は
通常年額33万円ですが
それが

年収 250 万円未満の家庭	授業料	無　料
年収 350 万円未満の家庭	授業料 月額	2,947 円
年収 430 万円未満の家庭	授業料 月額	10,373 円
年収 430 万円以上の家庭	授業料 月額	17,798 円

となりました。

大村聖母幼稚園の学校法人認可実現、二千八百万円の補助金獲得

幼稚園で働く保育士の皆さんは、ボランティアに近い状態でした。小林かつとし県議は幼稚園から陳情を受け、学校法人認可と補助金の支給を県担当課に求めました。

平成22年度から学校法人認可そして厳しい状況を一日も早く解消するために、認可前21年度に、別枠で補助金二千百万円を獲得しました。

活水大学看護学部の誘致実現に尽力

大学を誘致する、それは大村で誰もなしえなかったこと。しかし小林かつとし県議は県庁の全面支援をとりつけて誘致実現に、相当な尽力を果たしました。

看護学部の入学式にて

独法長崎中央医療センター
米倉院長室で協議

県議会において、県当局と論戦・・答弁から「福祉切り捨て」の本音暴き、大村市の乳幼児医療制度を堅持する。

平成十九年6月議会
【小林かつとし県議】
償還払いを県は進めようとしているが、何故か。

《こども家庭課長》
昨年十一月の長崎県福祉医療制度検討協議会で、方向性を示し御了解をいただいた。

【小林かつとし県議】
了解というが、大村市は市長名でも、議会でも現行制度の堅持を要請しており、県の指導に屈服したかのように聞こえるが違う。

大村の委任払方式は、現実にお金を支払うのだから、負担感は充分にある。しかも十年も続いた制度である。

十九年度十一月議会
【小林かつとし県議】
結論から言うと、要するに何で現物給付とか委任払いがだめなのか。いろいろ言うけれども、結局は100％使って貰っては困るという考えが根底にある。

（中略）

『面倒な制度にすれば、その制度を利用する者は少なくなるだろう。』という、本来制度利用を推めるのではなく、経費節減のためにせっかくの福祉制度を使いにくいようにする県当局の姿勢を暴き出しました。

『小林かつとしの正論』の前に、県も制度改正を撤回しました。

乳幼児助成委任払制度（大村）

大村市独自の子育て支援制度。
0歳児から小学校入学前の乳幼児が、何度病院にかかっても、月に最高自己負担を 1，600 円支払えばよいという制度。
例えば、その月の病院代が 1 万円かかっても、いったんは窓口で支払うが、後で自分の口座に 8400 円が戻ってくる制度。（しかも手続きは第三者が行う、つまり自分でしなくてよい制度）

実現力ナンバー１！それが小林かつとしです。

却下された県補助金を国に代えての補助金獲得！
国の複数の省庁にまたがる長年の未解決案件を解決する！
いずれも尋常ではない、県・国政への力です。

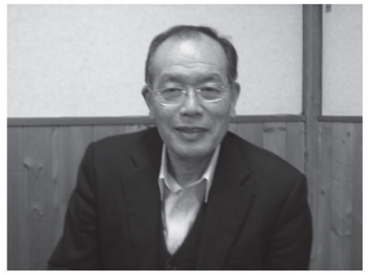
『シュシュ』農産物加工工場建設へ国の補助金獲得

県の補助金を申請、内定していたものが、土壇場で却下。

加工工場建設が危ぶまれていましたが、小林かつとし県議が陳情を受け、県と交渉。

県の補助金行政における曖昧な姿勢を追求しました。

小林県議の意向を受け、県担当者は国に補助金申請を行い、事業に必要な資金を補助金として獲得しました。


シュシュ　鹿山雅勝専務

困難な課題・陳情にも、小林かつとし県議は、実行・実現します。

そういう陳情を実現した小林県議には、感謝の手紙が寄せられています。

長崎県土地家屋調査士会
会長　相沢　治典

「小林先生本当に有難うございました。不動産登記法と土地家屋調査士法が制定され六十年間の難問をわずか九ヶ月で解決された実行力に・・・厚く御礼申し上げます。」

県の未登録物件解決へ！国土交通省・法務省と協議長崎モデル（方式）

県や国、公共団体が公共事業を行う際に土地を取得します。今はきちんと分筆登記を行いますが、過去それをしないまま、所有権移転登記をしないまま工事完了となる事態が多かったのです。

そのため公共用地であるのに、所有の保全ができなかったり、元の所有者に課税されたりとなっていました。

小林県議は陳情を受け、国土交通省と法務省にまたがって交渉し、解決への道をつくりました。

市道を県道昇格し県予算で安全対策実行

諏訪地区の変則交差点は交通弱者には大変危険なところです。

小林県議は陳情を受け、検討、市道としての対策が不可能と見るや県道昇格し、県予算で安全対策を講じました。

野岳湖改修計画実現・県知事と視察

漏水する野岳湖は改修費用も、改修計画も尋常ではありません。

小林かつとし県議は地元水利組合の要望・陳情を受け改修計画を実現させました。

陳情行動において県知事とともに

地元村崎市議とともに現地視察、県道昇格を決断する。

誰もできなかったこと・・大村三河川（郡川・鈴田川・今村川）改修実現！

葦が茂り、河川がややもするとゴミ捨て場（不法投棄）になっている。河川の汚染は大村湾の環境悪化にもつながる放置できない問題です。

限られた予算で少しずつ改修をしても、翌年には葦が昨年同様に茂っている、そういう現状では、いつまでたっても、河川改修は終わりません。地元の河川を守り、環境保護に努めている人々と手を携え、一気に改修していく、そういう実行力が、政治力が必要なのです。

小林かつとし県議は県河川課と協議、予算化を実現しました。

郡川河川改修に尽力、
喜ぶ森本英敏会長

今村川河川改修で
喜ぶ後藤寛之会長

郡川、矢次橋付近 ·年次計画で
河川改修を一気に実現する。

鈴田川河川改修に尽力、
尾崎　修二鈴田地区町内会連合会長
と岩松地区の一瀬　一春様

東大村産業廃棄物処理場問題解決への道筋をたてる

今村川改修で、設計説明と住民の要望を聞く、小林かつとし県議と県職員

この河川改修がすばらしいのは次の二点。

まず地元の人たちの意見や考えを河川改修工事計画に設計の段階から取り入れたこと。

２点目は、改修後、地域の人たちの力で河川の保全が計画されていることです。

地域の声をきちんと聴き、県を動かす。小林かつとし県議の主導のもとに、県の行政も動きました。

誰でもいいと言うわけではありません。やる人がやればできるのです。

県は地元への説明を全くおこなわず、業者に対してきちんとした行政指導を行っていなかった。

全く紛糾し混乱した状況において、小林かつとし県議は、地元住民の陳情を受け行動を開始しました。

先ず行政としての説明責任を果たすために、地元説明会を開催。

そこで、産廃処理業者の不法行為を指摘し、県当局の不手際を認めさせました。

もつれた糸を解きほぐすように、解決への道を進み、今は県環境部も小林かつとし県議の指導の下に適正解決への道を進んでいます。

解決への道筋が
見え喜ぶ、
針尾川流域を
守る会事務局の
森　増雄様

教訓を元に、産廃施設の監視員の増員（一九名警察官ＯＢ）を決定しました。

漁業問題解決へ県支援体制の確立

小林かつとし県議が復活当選するまで、大村における水産関係予算は見る影もないものでした。

水産業における課題、問題は山積しているにもかかわらず、全く要望は通らず、政治不信とあきらめを深めていました。

小林かつとし県議は、県政報告会における漁業従事者の意見を聴き、早速県当局と協議、新城漁協会議室において県水産関係幹部職員との協議会を実現。漁業関係者の要望を次々に実現しています。

新城・大村漁協会議室にて

二嶋富寛組合長
組合長室で陳情を受け協議する

ナマコは大村湾の名産です。しかし、ナマコで生活する漁業者にとっては、規制が実情に合わず、困っていました。

小林かつとし県議は、実際に漁船に乗り込み、実態を視察し規制の緩和を実現しました。

ナマコ漁の船に乗り込み、
実情を視察

市民の声を聴く、「すぐ行動！すぐ結果！」手を抜かない！全力で動く！

漂流物の東部漁港を視察。即実情を県担当部局に電話、即日の対策指針を指示する

大村三漁港のうち、東部漁港だけが特別の問題を抱えています。

毎年、大雨の時、台風の時、河口から流れ込んでくる漂流物です。

鈴田川から流れてくる、流木、雑草類、漁船のエンジンに絡み、甚大な被害を与えます。

東部漁協の皆さんは、毎年その時期になると漁を休み、漂流物の清掃をおこなっていました。

小林かつとし県議は東部漁協瀬崎組合長から陳情をうけるや、実情を視察し、県当局と折衝し、経費の県負担を実現しました。（清掃にかかる人件費も含む。）

また、河口に防護網を設ける、上流域河川改修を実現するなど、複合的施策を実施実現しました。

松原よし川の河口周辺の視察

越波、高潮等の被害を防止し、地域住民の安全・安心な暮らしを確保するために、必要な工事である。

小林かつとし県議は、陳情を受け、率先して行動した。

国の事業認可に向けて、県・市一丸となって行動、海岸保全事業として事業着手となった。

松原漁港護岸改修事業は平成21年度より新規事業として実現された。

海底耕運のための経費、県支援一八〇〇万円、五年継続決定！

経験的に漁場の赤潮・青潮対策に有効であるとされている海底耕運。

今までは各漁協の自己負担で実施していましたが、小林かつとし県議が県部局と交渉し、補助金として獲得しました。

松原漁協組合長　西川　武利様

また、漁場を荒らす密漁船の監視体制も確立しました。

原油高、漁場環境悪化で苦しむ漁業者のために、二〇〇〇万円までの融資制度を創設

閉鎖性水域である大村湾は、海底のヘドロ対策に長年苦慮してきました。

先の海底耕運事業も、その対策であります。

永遠のテーマである大村湾活性と再生に水酸化マグネシウム散布事業の推進支援

大村湾漁協9人の組合長から、『水酸化マグネシウム』散布による大村湾活性と再生に期待できるというデータ・報告書が出されました。

国、水産庁においては、まだ取り組んでいません。しかし海底部において、生物（二枚貝・エビ・蟹・ゴカイ）やアマモの出現が確認されています。

小林かつとし県議は、この報告書に注目。県に働きかけて予算を獲得して調査を続行させました。

プレジャーボート協議会の適正運営と要望解決！

内田川河口にある、レジャー用ボートの係留管理について、様々な問題がありました。

小林かつとし県議は陳情を受け県所管課を現地において協議会の皆さんと協議し、係留費等を含め適正運営と各種要望事項を解決しました。

県政報告会で、御礼を述べるプレジャーボート協議会　田中 秀一様

天正夢まつり補助金四〇〇万円獲得する

大村市が四〇〇年祭を計画しましたが、市財政難のために、予算不足に陥っていました。

大村市長から陳情を受け、即日実行、県と交渉し、補助金四〇〇万円を獲得しました。

植松一丁目に郵便ポストの設置

植松一丁目にポストがありませんでした。

町内のご老人の方々は、手紙を出すために、他の町まで歩いて行かねばなりませんでした。

小林かつとし県議が実現しました。

ポスト設置を喜ぶ
前田ハツエ様
町内会長
村岡絢次様

＋エコ運動 地域モデル事業認定

鈴田第２親老会の皆様が取り組んでいる、環境活動を支援しました。

財政難で、ＥＭ菌普及活動に支障をきたしていた皆さんが、小林かつとし県議へ陳情。

小林県議は、県内にこのような環境活動に取り組んでいる皆さんに県が具体的に支援できるように、事業を支援する基金を創設、鈴田地区第２親老会の皆さんはその第１号認定となりました。

鈴田第２親老会の皆さん
環境浄化EM団子作成中

緊急時に、県行政とともに災害支援をおこなうことを盛り込んだ緊急災害時提携契約を、工務店連合会や電気工事事業協同組合、管工事業協同組合・ビルメンテナンス協会と締結しました。

緊急災害時提携契約を締結
瀬尾工務店社長

黒丸踊りの海外公演に財政支援

黒丸　土本様

郷土芸能、県指定無形民族文化財である黒丸踊りが海外公演を行いましたが、財政支援がほとんどありません。

小林かつとし県議は陳情を受け、県交渉をし、財政支援をおこないました。

県民の声を直接聴く会を開催　初の実施

県議会改革
（公聴会で説明する小林県庁舎特別委員長）

雨の中、現地視察
（坂口町荒瀬交差点付近）

県議会改革（一問一答方式）の導入実現

県議会がなれ合いではなく、真剣勝負の議会に。

バイオラボ問題で証人喚問

不正も怠慢も許さない。県民の血税であるお金を、監督不足で浪費した、バイオラボを徹底追求。黙認した県行政のあり方も徹底的に追求しました。

小路口地区にある、言泉寮跡地が新幹線の代替地として使用されるのは反対、他の土地を求めて下さいと陳情しました。中野竹松町内会長を先頭に、竹松・坂口・植松地域の皆さんが、運動公園的憩いの場、そして災害時の緊急避難場所として引き続き利用することを、陳情しました。

小林かつとし県議は、皆さんと一緒に、中村法道県知事、山口総務部長に陳情内容について説明し、強く要請しました。

言泉寮跡地の利用について陳情、

中村法道県知事、山口総務部長、土木部次長

大村さくらの家、施設着工へ 県費補助金獲得

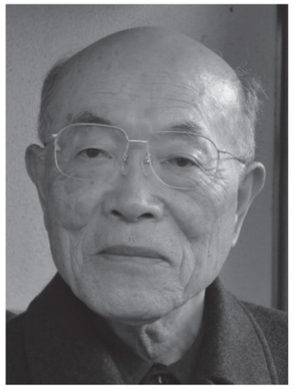
ハンディキャップを持つ子供たちには社会的助力が必要です。

作業スペースが狭く、安全に作業ができない状況で悩んでいました。

小林かつとし県議は、『手をつなぐ育成会』陳情を受け、補助金獲得を実現しました。

今は広く作業場所が確保され、元気に頑張っています。

大村さくらの家
藤川　充理事長



久原養護学校（現虹の原特別支援学校）高等部設置において尽力したのも小林かつとし県議です。

復活当選（H19年）した翌年から違いが明らか、

県議は誰がやっても変わらない。そうではありません。

やるべき人がやれば、必ず変わります。

長崎県の公共事業費 平成18年度比５％減

県から大村市へ 同比　４６％増

長崎県の予算伸び率 大村が１位

県予算に占める大村市関係予算

（単位：百万円）

	H18	H19	H20	H21	H22
県全体	100,200	91,600	91,300	104,300	95,300
大村市公共事業費	1,300	1,300	1,500	2,000	1,900
H18からの伸び率		0.0%	15.4%	53.8%	46.2%
農林水産関係予算	153	130	155	154	606
中小企業経営緊急安定化対策資金	0	0	2,809	773	167
その他の産業	84	156	97	641	294